地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2014. 10.
No.5

県立尼崎総合医療センター（仮称）

[各部紹介]

呼吸器内科
呼吸器外科
産婦人科

新病院に向けてリレーメッセージ
地域医療連携部長から

コラム
誤解しやすい病院の言葉

近松門左衛門の菩提寺として
知られる広済寺（尼崎市）

兵庫県立尼崎病院　兵庫県立塚口病院

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

呼吸器内科

呼吸器内科は、皆様方の“元気”を、精一杯応援致します!!

私共呼吸器内科は、呼吸器外科と一体となって、呼吸器グループを形成し、両者が、有機的に関わりあって呼吸器疾患全般にわたり、よりよい診療を目指すこと、そして、「皆様方の“元気”を、精一杯応援」することを目標と致しております。大学教授を輩出した塚口病院呼吸器科の燦然と輝く伝統と尼崎病院呼吸器内科の長年にわたって築き上げてきた伝統とを融合し止揚させて、臨床と研究の両面にわたって先進的な医療を目指す所存です。

県立尼崎病院 呼吸器内科部長

遠藤 和夫

日本呼吸器学会認定医･指導医
日本内科学会認定医
ICD(infection control doctor)認定医

県立尼崎病院 診療部長 兼 呼吸器内科科長

平林 正孝

日本呼吸器学会認定医･指導医
日本内科学会認定医
がん治療認定医機構認定医
京都大学呼吸器内科臨床教授
緩和ケアの基本教育のための指導者研修会修了

呼吸器内科の紹介

呼吸器内科には、咳や痰、息切れといった症状のある方、或いは、胸部X線写真で異常を指摘されて精密検査のために受診される方が多くいらっしゃいます。よくお話をうかがい、分かり易くご説明させて頂くことを心がけて診療にあたっております。医療機関の一層の発展には、医療関係者のみならず患者さま方のご参加ご協力が不可欠です。医療者と被医療者とが相互に関わりあってお互いを止揚したところに新たな地平が拡がって参ります。皆様方と共に新病院呼吸器グループの更なる発展向上を希求して参りたいと存じます。

対象とする疾患

①肺炎をはじめとする呼吸器感染症
②気管支喘息を主としたアレルギー性疾患
③肺気腫を含んだ慢性閉塞性肺疾患
④間質性肺炎に代表されるびまん性肺疾患
⑤肺癌・悪性胸膜中皮腫等の腫瘍性疾患

各種呼吸器疾患の多施設共同臨床研究にも多数参加しておりますので、何卒よろしくご協力下さいます様お願い申し上げます。

平位医師

後列左から：柏原秘書、平野医師、竹村医師、片岡医師、二階堂医師、嶋田医師
前列左から：堀口医師、前橋医師、遠藤医師、平林医師、細川医師、四宮医師

呼吸器外科

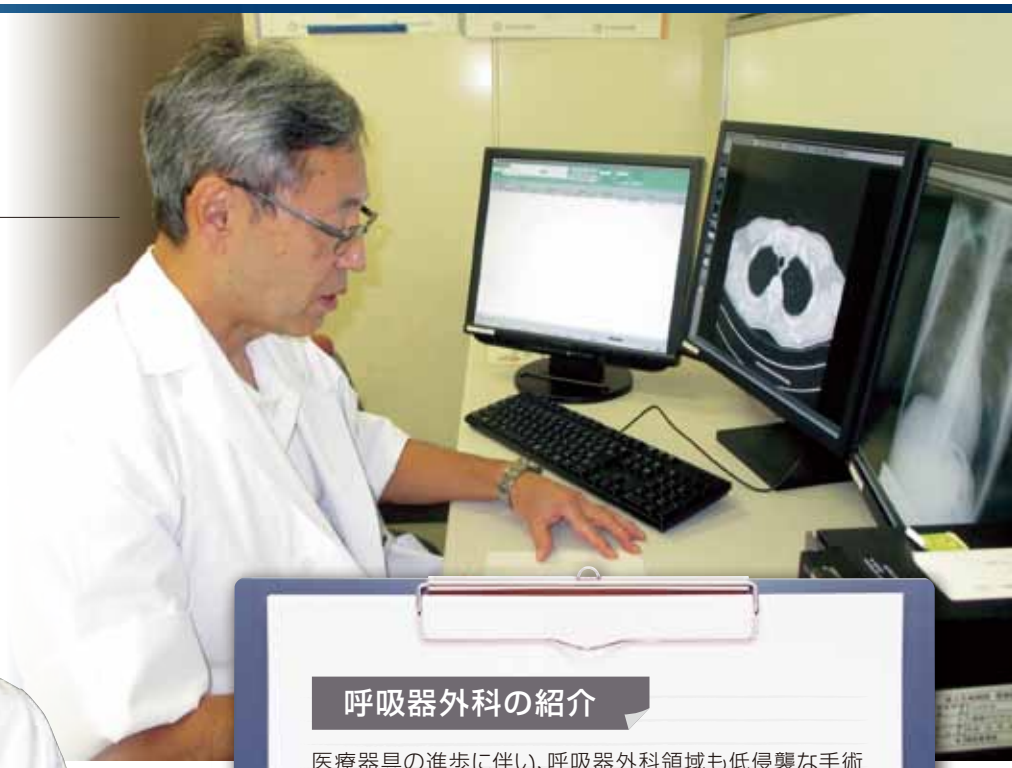
呼吸器外科は、常に患者様のQ.O.L.を、第一に考えます！

呼吸器外科は、2006年に県立尼崎病院と県立塚口病院が機能分担し再編された折に、県立尼崎病院に集約されました。それ以後は、双方のスタッフが協力し、年間230例以上の全身麻酔下手術を続けております。新病院では、救急部が新設され、常時緊急患者様に対応するようになります。スタッフを補強し、通常の予定手術を行っている時でも胸部外傷などの緊急手術に対応できるように、より一層充実させる予定です。

県立尼崎病院　呼吸器外科科長

糸井 和美

日本胸部外科学会指導医・認定医、
日本呼吸器外科学会指導医・専門医・評議員資格、
日本外科学会専門医・指導医、
日本呼吸器内視鏡学会指導医・気管支鏡専門医



呼吸器外科の紹介

医療器具の進歩に伴い、呼吸器外科領域も低侵襲な手術が広く行われるようになってきました。当院でも、胸腔鏡というカメラを使い小さな切開創でおこなう内視鏡手術が、全体の8割を占めております。
肺癌の手術はもとより縦隔腫瘍の摘出術においては、従来は、心臓の前にある胸骨を縦に割る（胸骨正中切開）という侵襲の大きな手術を行っていましたが、現在は、片側の小開胸を行い胸腔鏡を利用して手術を行なうことで、患者さまに喜ばれております。

対象とする疾患

- **肺癌・縦隔腫瘍などの腫瘍性疾患から真菌症・結核・膿胸などの炎症性疾患**
- **年間の呼吸器外科外来初診患者数：約300例**
- **年間の全身麻酔手術症例230例以上**
  - ・その内の約3分の1強が肺癌症例で、肺悪性腫瘍全般では、全症例の4割を占めています。
  - ・気胸症例が約5分の1で、結核や真菌症などの炎症性疾患が約10%です。

後列左から：野村医師、森村医師、長谷部学生、深田医師
前列左から：岩切医師、糸井医師、阪井医師

産婦人科

女性と赤ちゃんに最善の医療を提供する産婦人科

新病院では、地域中核病院の産婦人科として、産科・婦人科救急疾患、合併症妊娠の外来紹介と緊急母体搬送の受入れ、および、困難事例を含めた様々な産婦人科診療など数多くの患者さまの治療に対応していきます。このように幅広く、患者さま一人一人に対して丁寧に対応し、そこから多くのことを学ぶことにより、スタッフ全員がレベルアップを図り、また、優れた人材の育成をめざします。

産婦人科の紹介

- 産科・周産期医療、産婦人科救急において、あらゆる疾患に24時間体制で対応。
- 総合周産期母子医療センターを設置し、関係各科と密に連携しつつ高度な産科・周産期医療を提供し、ハイリスク妊娠・分娩に対応。
- 産科セミオープンシステムを積極的に活用します。メディカルバースセンターでは、助産師が主体となってローリスク妊娠・分娩に対応。
- 婦人科疾患では、ハイレベルの安全性・快適性を確保し婦人悪性腫瘍手術、内視鏡下手術を実施。
- 専門外来として、胎児診療外来、出生前診断外来、NIPT外来、CIN外来を開設
- 遺伝診療センター、性暴力被害者支援センター・ひょうごとの密な連携。

対象とする疾患

《産科・周産期》

正常妊娠・分娩はもちろんのこと、妊娠合併症、合併症妊娠、胎児疾患（先天性心疾患、新生児外科疾患、胎児治療対象疾患など）、出生前診断、遺伝カウンセリングなど。

《婦人科》

急性腹症などの婦人科救急疾患、良性疾患に対する診断・治療、CINをはじめとする婦人科悪性腫瘍に対する診断と治療。

県立塚口病院
医療安全対策担当部長
兼 産婦人科科長

廣瀬 雅哉

日本産科婦人科学会専門医
日本周産期新生児医学会専門医（母体・胎児）
臨床遺伝専門医・指導医
細胞診指導医
新生児蘇生法「専門」コースインストラクター

後列左から：佐藤医師、濱西医師、廣瀬医師、山田医師、邨田医師
前列左から：今井医師、鈴木医師、田口医師、小野医師

新病院に向けて

地域医療連携部長から

リレーメッセージ

～阪神間の医療連携スタイルが変わります～

★ 紹介状を中心とした高度専門医療の提供

県立尼崎総合医療センター（仮称）の開院まで半年余りとなりました。新病院は、かかりつけ医からの紹介に基づく高度専門医療と救急医療を担う病院として生まれ変わります。新病院では、地域医療機関内での診療機能に応じた役割分担とその連携が重要となります。現在、塚口病院と尼崎病院の地域医療連携室では、新病院が阪神間の医療連携の中心的な役割を果たすべく、一から業務の見直しを進めています。

県立尼崎病院　地域医療連携部長
（地域医療連携センター長）　齋田　宏

★ ＩＣＴ化医療連携システムによる診療情報の共有

阪神地域では、阪神医療福祉情報ネットワーク「*h-Anshin* むこねっと」がすでに稼働しており、かかりつけ診療所など複数の医療施設間にて患者さまの医療情報の共有ができるようになっています。これからの医療連携を進める上で有力な手段であり、一層の利用を推進していきたいと考えています。

県立塚口病院
地域医療連携部長
（地域医療連携室長）
北野 則和

★ 地域内の複数医療機関での診療

新病院では重症の救急患者さまの入院が多数見込まれることから、長期入院により病床数が不足することが懸念されます。このために、地域医療連携センターでは、入院早期から看護師、医療ソーシャルワーカーが退院支援･調整を行い、円滑な早期退院ができるようにしていきます。退院後は、在宅、地域包括ケア病棟や療養病床を有する病院への転院、介護施設への入所等となりますが、関係医療機関や施設との調整を密に行っていきます。このように、今の医療は一病院で完結するものではなく、地域医療機関との円滑な連携による地域内完結型医療が求められます。これをさらに発展させて、地域包括ケアシステムの構築を目指していきたいと考えています。

新病院では医療相談も行いますので療養生活の相談や医療、福祉に関すること等、気軽に声をおかけください。我々地域医療連携センターの職員は、阪神地域の拠点病院としての役割を果たせるよう、努めていきたいと考えています。

次号予告

次号は、
「県立尼崎病院　福井英二　薬剤部長」と
「県立塚口病院　寺川則子　薬剤部長」
からのメッセージです。

セミナーのご案内

市民健康公開講座　市民すこやかセミナー

第49回すこやかセミナー

多くの方のご参加を！

【テーマ】「乳がんについて、もっと知ろう！」

1）「ここまで進んだ乳がん検査と治療」▶講 師：県立塚口病院 乳腺外科 医師 諏訪裕文
2）「乳がんを早期に見つけるための方法」▶講 師：県立塚口病院 乳がん看護認定看護師 島村千春

【日　時】平成26年11月7日（金曜日）　午後2時～3時30分
【場　所】フェスタ立花　すこやかプラザ（JR立花駅南側すぐ）　参加費：無料（予約不要）

★お問い合わせは、塚口病院 地域医療連携室 ☎06-6429-5321（代表）へ

お知らせ

兵庫県立尼崎総合医療センター（仮称）
Facebook ページを開設しています。

兵庫県立尼崎総合医療センター　フェイスブック　検索

Find us on Facebook　してね！

充実した研修を受けた新人ナースが安心の看護を届けます！

あまいるちゃん▶
初心者マーク

日本看護協会により**新人看護職員研修PRポスター**が作成されました。このポスターは、新人看護職員が皆さまに安全な医療を提供できるよう法律に基づく研修を受けていることを、患者さまやご家族にお伝えするものです。

尼崎・塚口病院も、法律に基づく新人看護職員研修を行っていますが、さらに新病院の開院を控え、平成26年度から両病院で同じ研修を年間15回行い、新人看護師の実践能力の育成に努めています。

新人看護職員研修PRポスターは、各病棟や総合案内に掲示し、新人看護師は名札に**“あまいるちゃん初心者マーク”**をつけております。

看護師は、患者さまとの関わりの中で成長していきます。プロフェッショナルナースとして成長できるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

尼崎病院・塚口病院　看護部

誤解しやすい病院の言葉 シリーズ No.4

医療者が病院で使用する病状や病名などの医学用語には、一般の皆さんが日常生活で用いる言葉と意味合いが大きく異なったり、馴染みのないものがあります。

【誤嚥（ごえん）・誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）】

医療分野ではよく使われる言葉の一つですが、この意味を十分に理解されている一般の方は、少ないかもしれません。食物ではない異物を胃内に飲み込んでしまう「誤飲（ごいん）」と混同されやすいようです。

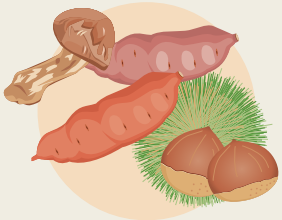
誤嚥とは、飲食物や唾液が誤って食道ではなく気管へ入ってしまうことで、神経障害など飲み込む動作がうまくできない時に起こりやすい病態です。通常は、気管に食物が入りかけると激しくむせ押し出そうとしますが、細菌が口腔内から肺に入ることで病気（**誤嚥性肺炎**）を引き起こすきっかけとなります。

体力の低下した患者さんやご高齢の方では、飲み込みの反射が鈍くなり、誤嚥を生じやすいので注意をしましょう。

編集後記

ススキの穂先を通して見上げた真っ青な空の、繊細で透き通るようなすじ雲に秋を実感しました。身近で起きた豪雨や土砂災害の後の秋祭りや紅葉狩り、新米にサツマイモ、栗の収穫。自然の恵みを味わいつつ今日を感謝する気持ちを持ちたいものです。建設中の新病院は日々大きく姿を表しています。地域の皆さんもこの姿とともに秋空の様々な雲を観賞しつつ新病院に期待していただきたいと思います。

（塚口病院 看護部 F. S.）



兵庫県立尼崎病院
〒660-0828 兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号
TEL 06-6482-1521(代表)　FAX 06-6482-7430
http://www.amahosp.amagasaki.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎病院　検索

兵庫県立塚口病院
〒661-0012 兵庫県尼崎市南塚口町6丁目8番17号
TEL 06-6429-5321(代表)　FAX 06-6422-7405
http://www.tsukaguchi-hospital.net/index.html
兵庫県立塚口病院　検索

発行　兵庫県立尼崎病院　兵庫県立塚口病院
企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社